

平成28年度第5回 流山市環境審議会 議事要旨

日 時： 平成28年12月13日（火）午後10時～12時

場 所： 市役所第1庁舎3階庁議室

出席委員：

新保國弘会長、金森有子委員、朽津和幸委員、吉永明弘委員、
和田まつゑ委員、村越弘行委員、岡田啓治委員、栞原芳朗委員、
佐藤明委員、中村悦子委員、和田登志子委員

事務局（環境政策・放射能対策課）：

古川環境部長、染谷環境部次長兼環境政策・放射能対策課長

樋口環境政策・放射能対策課長補佐、遠藤環境政策係長、大竹主事

傍聴者：0名

議 題：

ア 諮問内容について

イ 策定部会の経過報告について

ウ モニタリング調査について

資 料：

資料1：第1回生物多様性ながれやま戦略策定部会意見及びその対応

資料2：モニタリング調査員 人員の推移

資料3：ながれやまモニタリング結果報告書

資料4：生物多様性ながれやま戦略の策定の視点について

発言者	要旨
(議題ア) 諮問内容について	
事務局	<p>生物多様性戦略における市長からの諮問においては、策定の視点として、前回審議会で説明した3点「(1)重点地区・拠点の拡大について」「(2)重点地区・拠点における今後の取組計画について」「(3)評価指標の見直しについて」に加え、「(4)団体との協働について」の4点を重点的に審議いただきたい。</p> <p>4つ目の「団体との協働について」は、部会の意見により4つ目の視点として取り入れたものである。</p>
新保会長	事務局からの説明があったが、意見はあるか。
栞原委員	生物多様性国家戦略との年次的な整合性は、ながれやま戦略ではとれているのか。
事務局	<p>生物多様性国家戦略ではそれを基本として、地域の実情にあったものを地域戦略として作成することとしている。</p> <p>年次的な整合性については、調べて調整する。</p>
新保会長	地域の実情に合わせ、やれること、やらなければならないことを柱とした戦略にすることが肝要と考える。
(議題イ) 策定部会の経過報告について	
事務局	<p>11月18日に第1回生物多様性ながれやま戦略策定部会を開催し、本審議会から新保会長、佐藤委員、岡田委員の3名、市民団体から特別委員として3名、計6名に出席いただいた。</p> <p>特別委員の委嘱後、部会長選出が行われ、佐藤委員が部会長に選出されたことを報告する。部会での意見等については、佐藤部会長に願います。</p>
佐藤部会長	<p>意見1「重点地区・拠点の拡大」</p> <p>現在新拠点とするための予備調査をしている4拠点については重点拠点到すべきという考えで一致した。事務局提案のモニタリング調査をしていない市街化区域内の調整池なども、今後検討していくこととなった。</p> <p>意見2「新拠点選出時の土地の担保性」</p>

	<p>重点拠点の新拠点を選定するにあたり、土地の担保性に配慮しなければならないという意見があった。</p> <p>意見 3、4 「重点地区・拠点における今後の取組計画」 まず、各拠点の課題や問題点を洗い出す必要があるという意見があった。</p> <p>また、取組計画については長期間について記載しても、環境変動等により状況が変わる可能性があるため、概ね5年のことを計画すべきという意見があったが、50年間戦略では概ね10年ごととしているためこの文言から大きく外れないようにしたい。</p> <p>意見 5 視点の追加「団体との協働」 事務局が示した策定の視点3つ以外に環境保全に係る市民団体の支援育成について記載したいという意見があった。50年間戦略の中期段階のグランドデザインで市民団体の育成について記載されていることと、携わる人員や後継者不足の問題からあげられたもの。</p> <p>意見 6 「モニタリング調査員の増加育成」 意見 5 と同様、継続的にモニタリング調査を行うためにも人員の確保をしたい。</p> <p>意見 7 「モニタリング調査員の人員の推移」 意見 6 に併せて、データでモニタリング調査員の推移を示してもらいたい。</p> <p>意見 8 「各拠点の将来像について」 各重点拠点の具体的な将来像を記載すべきとの意見があった。</p>
新保会長	今の佐藤部会長からの報告を受けて、事務局の対応について説明を求める。

事務局	<p>意見 2 「新拠点選出時の土地の担保性」</p> <p>重点地区は取組を広く進める地区、拠点は地区の中でも重点的に取組みを進めることができる場所を選定するため、地権者に配慮した表現で記載したい。</p> <p>意見 3、4 「重点地区・拠点における今後の取組計画」</p> <p>拠点の課題については、現在策定部会委員の方にアンケートをだしており、策定部会委員の意見と事務局の意見を合わせて取りまとめを行う。</p> <p>スケジュールのスパンについては、実施しているモニタリング調査結果を概ね5年ごとに評価したうえで、その結果を受けて必要に応じ戦略の見直しを行いたいと考えている。</p> <p>意見 5 「団体との協働」</p> <p>視点の4つ目に加えることで対応をする。</p> <p>意見 6 「モニタリング調査員の増加育成」</p> <p>意見 5 も、意見 6 もまずは市民に生物多様性に興味を持ってもらう必要がある。よって、イベントや情報コーナーの設置により市民啓発や市民団体の情報発信の場を作りたい。</p> <p>意見 8 「各拠点の将来像について」</p> <p>長期の将来像を具体的に描くのは難しいかも知れないが、記載する内容について検討したい。</p>
新保会長	ただ今の事務局説明に何か意見はあるか。
中村委員	土地の担保性について、何十年か後に地権者が代替わり等して重点拠点としての利用に反対があった場合どうするのか。
新保会長	公有地は私有地と比べると一般的に担保性は高いと判断される。例えば理窓会記念自然公園は東京理科大学が地権

	者であり、現在でも、市があれこれ言える拠点ではない。
事務局	借地である市民の森については、担当課と協議をする。
和田（と） 委員	市民が生物多様性について理解が不足している。なぜ必要なのかを前面に出すべき。
新保会長	時間をかけてじっくりやるべき。
岡田委員	重点地区拠点について知ってもらう情報発信の方法を考える上で工夫して行わなければならない。
和田（と） 委員	予算化して啓発をするのであれば、例えば市民教育のために拠点に拠点の説明の看板をつけ、生物多様性との関連を掲げるべき。
岡田委員	策定部会で今の意見も伝えた方が良い。
新保会長	策定部会でも、特に意見5、6については議論していきたい。続いて、「議題ウ モニタリング調査」について事務局に説明を求める。
～事務局よりモニタリング調査について概要説明～	
新保会長	事務局より説明のあった、モニタリング調査について何か質問等あるか。
金森委員	西初石小鳥の森は平成27年度から全く調査をしていないが大丈夫か。また、新拠点の選定理由を教えてください。
事務局	望ましい形について、今後市民団体等と話し合っただけで済ませたいと思う。また、新拠点の選定は、モニタリング調査リーダーから意見を伺い、生物多様性戦略市民会議にて決定した。
佐藤委員	モニタリング調査はどのくらいの頻度がいいのか、ものによって異なると思うが、例えば実施していない西初石小鳥の森も数年おきでよいならそれでよいので継続すべきではと考える。
岡田委員	チョウと植物については知らないが、鳥については希少種もいなく、大きな変化がなかったため、その人力を新拠点に注いでいる。
和田（と）	数年ごとでもいいならやるべきではないか。予算化でき

委員	ないのであれば、小中学校の理科部と一緒にやってもよい。追跡すべき種を決めて行うなど、簡便化して市民と一緒にやるべきだと考える。
新保会長	モニタリングは方法を決めて行っているので誰もができるというものではない。また場所により危険な個所もあり、子どもに期待する場合は慎重に対応する必要がある。
栗原委員	特定外来種対策として、アライグマやアレチウリに対して対応しているが、他の種はどうか。計画的に防除する必要があるのではないのか。
新保会長	千葉県においても、希少種は3種類について、特定外来種対策は4種（過去に他2種も実施）事業展開して対策を行っているが、逆に言うとそれだけの数しか力を入れて行うことができないのが現実である。
事務局	外来種については国に「外来種被害防止行動計画」というものがあるが、この内容に沿った行動を市は行っている。モニタリング調査については、様々な実施主体が行う可能性についても検討する。
岡田委員	市と協力してアライグマ防除を実施したが、とても大変である。すべての特定外来種について対応するのはとてもじゃないができない。実施するのであれば、専門職を雇ってやる必要がある。
佐藤委員	西初石小鳥の森や市野谷調整池の管理について、定期的に浚渫し、管理するべきだと考えるがいかがか。
新保会長	視点の4つ目を含めて団体の協力を得ながら、優先順位を付けて試行、つまり順応的管理を試みながら実施すべき。利根運河では浚渫を行ったが、費用対効果があまりよくないと聞いている。
事務局	管理部局と話し合っていきたい。
佐藤委員	どこの拠点もある程度人の手を加える必要があると考えるが、市民の中には何も手を加えないことが良いと考える人もいる。
和田（と）	場所ごとに子どもの学習目的、環境保護目的など、目的

委員	意識を持って維持管理をするべき。
新保会長	今課題の抽出については、事務局から部会委員にアンケートがきている。拠点ごとの目標については、意見の8つ目とかぶる部分があるので、考慮していきたい。
和田（と） 委員	市野谷の森地区や利根運河地区は非常に広い印象を受けるが、（仮称）古間木地区や（仮称）宮園地区は地区が狭い印象を受ける。両方を合わせて大きくしてもよいのではないかな
（議題ウ）その他について	
事務局	1月、2月に策定部会を実施し、審議会は3月27日（月）午後2時～4時を予定している。
新保会長	他に特に意見がなければ、本日の審議は以上とする。
～次回の第6回環境審議会は3月27日（月）とした～	